



令和4年度 ヒトパピローマウイルスワクチン接種の お知らせ(子宮頸がん予防) **キャッチアップ接種用**

No.164

ヒトパピローマウイルスワクチン定期接種につきましては、厚生労働省の勧告に基づき、平成25年6月14日から積極的な勧奨を差し控えていましたが、令和3年11月26日の厚生労働省の通知により、積極的な勧奨が再開されました。これに伴い、積極的勧奨が差し控えられていた関係で接種機会を逃した方に対し、令和4年4月1日から令和7年3月31日までの3年間、改めて公費での補助を受けられるようにする特例制度として、下記対象者の方々に対しキャッチアップ接種が行われることとなりました。

対象者

平成9年4月2日から平成18年4月1日の間に生まれた女性

ヒトパピローマウイルス感染症とは

ヒトパピローマウイルス (HPV) は、性経験のある女性であれば50%以上が生涯で一度は感染するとされている一般的なウイルスです。子宮頸がんを始め、肛門がん、膣がんなどのがんや尖圭コンジローマ等多くの病気の発生に関わっています。特に、近年若い女性の子宮頸がん罹患が増えています。

ワクチン接種の効果

HPVワクチンは、子宮頸がんをおこしやすいタイプであるHPV16型と18型の感染を防ぐことができます。そのことにより、子宮頸がんの原因の50～70%を防ぎます。

HPVワクチンを接種することにより、子宮頸がんの前がん病変を予防する効果が示されています。

副反応

主な副反応については、発熱や接種した部位の痛みや腫れ、注射による痛み、恐怖、興奮などをきっかけとした失神などが挙げられます。また、稀に重い症状としてアナフィラキシー、ギラン・バレ症候群、急性散在性脳脊髄炎 (ADEM)、複合性局所疼痛症候群 (CRPS) が報告されています。

接種期間 令和4年4月1日から令和7年3月31日まで

接種回数 合計3回 **【接種費用】 無料**
※同封の予診票が無料券を兼ねています。接種を受けるまで大切に保管してください。

受け方 希望する医療機関へ電話をして、接種日時を予約してください。
接種する際は、必ず同封の予診票(無料券)を持参してください。

接種場所 高松市予防接種実施協力医療機関(5ページの実施医療機関一覧表を御覧ください。)
香川県広域予防接種協力医療機関(高松市外の香川県内の医療機関で接種を御希望の場合は接種希望の医療機関《一部実施できない医療機関もあります》又は高松市保健予防課にお問い合わせください。)

持参するもの ○予診票
○母子健康手帳(接種歴を確認するとともに、予防接種を受けたことを記録します。)

お問い合わせ先

高松市保健所 保健予防課 高松市桜町一丁目10番27号 TEL(087)839-2860 FAX(087)839-2879

ワクチンの種類

定期接種で使用されているHPVワクチンは4価ワクチン（ガーダシル）、2価ワクチン（サーバリックス）の2種類があります。ワクチンの互換性に関する安全性、免疫原性、有効性のデータはなく、3回の接種を同一のワクチンで接種してください。

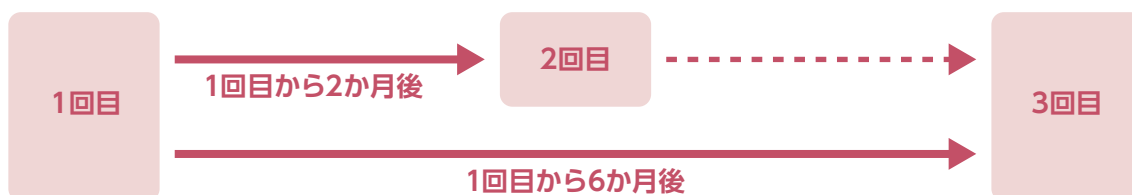
接種スケジュール

※4価ワクチン（ガーダシル）と2価ワクチン（サーバリックス）では、接種間隔が異なりますので御注意ください。

4価ワクチン（ガーダシル）を接種する場合

標準的な接種期間

初回接種、初回1回目接種から2か月後、初回1回目接種から6か月後の計3回

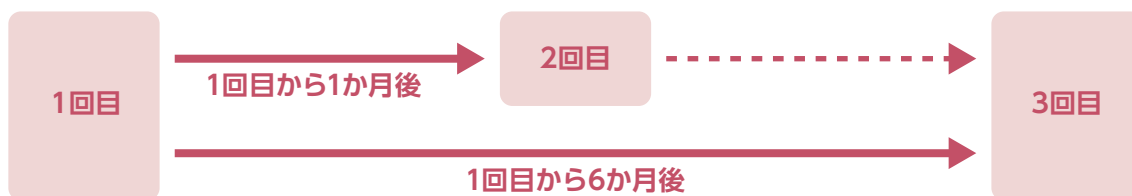


ただし、標準的な接種期間をとることができない場合は、2回目接種は初回接種から1か月以上、3回目接種は2回目接種から3か月以上の間隔をあけて接種することができます。

2価ワクチン（サーバリックス）を接種する場合

標準的な接種期間

初回接種、初回1回目接種から1か月後、初回1回目接種から6か月後の計3回



ただし、標準的な接種期間をとることができない場合は、2回目の接種は1回目の接種から1か月以上、3回目の接種は1回目の接種から5か月以上かつ2回目の接種から2か月半以上の間隔をあけて接種することができます。

※接種間隔の数え方の注意点

接種間隔の1か月は、翌月の同日です。

半月は、月によって異なります。2か月後が31日の月は16日後、29日・30日の月は15日後、28日の月は14日後となります。

1日でも短い場合は公費（無料）の対象外となりますので、接種間隔には十分注意してください。

また、「〇か月後」と「〇か月以上」は異なりますので、御注意ください。

他の予防接種との間隔

令和2年10月1日より、異なるワクチンにおける接種間隔の規定が改定され、HPVワクチンと異なるワクチンを接種する際の間隔の制限がなくなりました。

ただし、前後に新型コロナワクチン接種を行う場合においては、原則として13日以上の間隔をおいてください。また、HPVワクチンと新型コロナワクチン接種を同時に行わないでください。

予防接種だけで、全ての発がん性HPVによる病変が防げるわけではありません。早期発見するために、将来的には子宮頸がん検診の受診が大切です。感染から子宮頸がんを発症するまで、長い時間がかかるため、定期的に子宮頸がん検診を受けることで、病変を早く見つけ、治療することができます。

償還払い制度について

(既に任意接種として自己負担でヒトパピローマウイルスワクチンの接種をした方へ)

キャッチアップ接種の対象となる方が過去に任意接種として自己負担で接種を行った場合、その接種費用の全部または一部の払い戻しを行う制度があります。高松市のホームページで随時情報を更新しますので、こちらをご覧ください。



※HPVワクチンについて詳しく知りたい方は、リーフレット、相談先一覧、HPVワクチンに関するQ&A等が掲載されているこちらをご覧ください。



予防接種を受ける前に(注意事項)

1 一般的注意

- ① このお知らせをよく読んで、理解した上で受けましょう。わからない点は医師に質問してください。
- ② 体調が悪ければ延期し、体調の良いときに受けるようにしましょう。
- ③ 予防接種を受けるお子様の当日の状態をよく観察し、予診票に責任を持って記入をお願いします。
- ④ 予防接種を受けるお子様の日頃の状態をよく知っている方(保護者)が連れて行くようにしてください。
- ⑤ 体温は、接種直前に医療機関で測ってください。明らかに熱のある人(37.5℃以上)は、接種を受けられません。
- ⑥ 予診(予診票と診察)の結果、接種が受けられるなら、医師の説明をよく聞いて、最後に保護者の欄の“同意します”にマルをし、接種に連れて行っている人の氏名を記入して、接種を受けてください。
- ⑦ 接種後は、30分位医療機関内又はすぐに連絡のとれる範囲で観察してください。
なお、ワクチン接種後に失神(血管迷走神経反射)があらわれることがあるので、失神による転倒等を防止するため、注射後の移動の際には、保護者又は医療従事者が腕を持つなどして付き添うようにし、接種後30分程度は体重を預けられるような場所で座るなどした上で、なるべく立ち上がらないようにしてください。
- ⑧ 入浴は差しかえありませんが、接種部位をこすったり、激しい運動や特に疲れるようなことはやめましょう。
- ⑨ 接種後1週間は、副反応の出現に注意しましょう。

2 予防接種を受けることができない人

- ① 明らかに発熱(通常37.5℃以上をいいます。)している人
- ② 重篤な急性疾患にかかっていることが明らか人
- ③ その日に受ける予防接種の接種液に含まれる成分でアナフィラキシーを起こしたことがあることが明らか人
(「アナフィラキシー」とは、通常接種後約30分以内に起きる強いアレルギー反応で、発汗、顔が急に腫れる、全身にじんましんが出る、吐き気、嘔吐、声が出にくい、息が苦しいなどの症状に続き、ショック状態になるような激しい全身反応のことです。)
- ④ 上の①～③に当てはまらなくても、医師が接種不相当と判断した人

3 予防接種を受ける前に、医師とよく相談しなければならない人

- ① 血小板が少ない方や出血しやすい人
- ② 心臓血管系疾患、腎臓疾患、肝臓疾患、血液疾患、発育障害等の基礎疾患がある人
- ③ 過去に予防接種で接種後2日以内に発熱があった人
- ④ 過去にけいれん(ひきつけ)をおこしたことがある人
- ⑤ 過去に免疫不全の診断がなされている人及び近親者に先天性免疫不全症の人がいる人
- ⑥ 妊婦あるいは妊娠している可能性がある人(3回の接種期間中含む)

副反応が起こった場合

予防接種のあと、まれに副反応の起こることがあります。また、予防接種と同時に、ほかの感染症がたまたま重なって発症することがあります。

予防接種を受けたあと、注射部位のひどい腫れ・高熱・ひきつけなどの症状があったら、必ず接種を受けた医師に相談し、特に症状の強いときは、医師の診察を受けてください。

健康被害救済制度について

定期接種によって引き起こされた副反応により、医療機関での治療が必要になったり、生活に支障が出るような障害が残るなどの健康被害が生じた場合、その健康被害が接種を受けたことによるものであると認められた場合は、予防接種法に基づく給付を受けることができます。